

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 長崎県立対馬高等学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒817-0016  
長崎県対馬市厳原町東里 1 2 0

E-mail tsushima-h@news.ed.jp

Website http://www2.news.ed.jp/section/tsushima-h/

幼児児童生徒数 男子 237名 女子 264名 合計 501名  
幼児・児童・生徒の年齢 16歳～18歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、ESD を「持続可能な対馬を支える人材の創成」の手段と捉え、ESD の実践を通して「自ら課題を設定し、他者と協働して課題の解決を図る力の育成」を目標とした。

具体的には、これまでの「環境」「国際理解」に加え、新たに「その他 (持続可能な地域づくり)」を柱に、①環境問題に係わる活動、②国際理解に係わる教育、③持続可能な対馬をつくるための課題解決学習を行った。

### ① 環境問題に係わる活動

国境離島の対馬には、国内外から多くの漂着ごみが流れ着いており、漁業が主要産業である対馬にとって、漂着ごみによる海洋汚染は深刻な問題となっている。そこで、本校では、市が主催する「日韓合同ビーチクリーンアップ事業」に参加し、地域が直面している環境問題について実地体験を通して理解を深めている。また、水俣市の環境スタディーツアーに参加し、他の市町村の取り組みを学ぶことで、生まれ育った故郷の環境問題について改めて考えることができた。

## ② 国際理解に係わる教育

本校は国際文化交流コースを設置しており、生徒は授業で韓国語を学ぶとともに、韓国の高校との交流を行い、韓国の文化について学ぶ出張講義を年に5回以上受講することで、国際理解を深めている。コース外の生徒も、日韓合同ビーチクリーンアップなどを通じて韓国の方との交流を行っている。お互いの文化について学ぶと同時に、文化の多様性についても理解を深め、将来は国際的に活躍する人材の育成を目指している。

## ③ 持続可能な対馬をつくるための課題解決学習

普通科2学年・1学年の「総合的な学習の時間」を中心に、「ESD対馬学」の授業を実施した。

その学習過程で、2学年は地域の高齢者にインタビューを行い、激動の時代を生き抜いてきた地元の人々の話を聞くことができた。1学年では、対馬の医療福祉の第一人者や、水産業を支える若い企業の代表者を招いて講義をしていただいたほか、対馬振興局長から振興局がどのようにして若者を地域に根付かせようとしているかをお話いただいた。

こうした講義をはじめ、専門家に取材してその内容を新聞記事にまとめることで、生徒たちは地域理解を深めている。



① 水俣市環境スタディーツアー



② ボルギョウ女子高校との交流



③ 2学年・1学年「ESD対馬学」

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他( 持続可能な地域づくり )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

職員・市作成の独自資料
-------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校の教育課程においては、まず1・2学年普通科の「総合的な学習の時間」に、ユネスコスクールとしての活動を位置付けている。ESDを核とした課題解決型の学習過程を重視し、生徒たちは地域の歴史や産業・文化についての講義を受講し、それぞれの分野の専門家を取材してその内容を新聞記事にまとめることで、地域理解を深めている。グループ単位で活動を行い、生徒が自ら課題を設定し、解決策を探るアクティブラーニングを積極的に導入している。

また、本校が設置している「国際文化交流コース」のカリキュラムでは、韓国語や韓国の歴史・文化を学ぶことを重視し、将来的に国際分野で活躍できる人材の育成を目指している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校内分掌でユネスコスクール活動推進の担当者を決め、その担当者を中心に活動計画を立てている。また、分掌のみにとどまらない、学校全体での取り組みの足掛かりとして、まずはそれぞれの学年でユネスコスクールの活動に取り組むことができるよう、「総合的な学習の時間」の目的や計画を共有し、進捗状況の報告や確認を行うための会議を積極的に開催するようになっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本校では年間2回の「学校評価」アンケートを保護者・生徒・職員に対して実施し、ユネスコスクール活動を含めた学校活動を4段階で評価している。

その集計結果を見ると、「環境問題」に対する関心や、「政治・選挙などの社会参画」に対する関心については、まだ改善の余地があるということが明らかになった。人口流出・少子高齢化など多くの問題を抱えた対馬を支える主権者としての意識を醸成できるよう努めたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校では、毎月の学校だより「奏風」や学期ごとに発行する「ユネスコスクール通信」で、近隣の小中学校・官公庁・教育委員会に加え、本校に島外から進学した生徒の出身中学に送付している。また、各行事における生徒の取組をホームページで随時紹介することにより、本校の教育活動を発信している。

また、地域のフィールドキャンパスである「対馬学フォーラム」に、「ESD対馬学」で作成した新聞記事を出展し参加している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

ESD対馬学を進めるにあたり、「対馬市しまづくり推進部」に所属する市の職員や「対馬市島おこし協働隊」の教育コーディネーターと連携し、インタビュー先とのアポイントメントやマッチングをお願いした。また、地域のフィールドキャンパスである「対馬学フォーラム」に参加し、学習成果を発表して、ESDでの学習で得たものを地域全体に広く還元している。来年度実施の「ESD対馬学」においても、県振興局に巡検やインタビュー先候補を紹介していただく予定である。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

本校の国際文化交流コースにおいて、韓国の高校生との交流やホームステイを実施することができたが、「ユネスコスクール同士の交流・ネットワーク形成」にはまだ至っていない段階である。今後、ネットワークの構築にむけて、校内で検討する必要があると感じている。そのためにも、ユネスコスクールの公式ウェブサイトをはじめとして、どのような支援が受けられるかを把握し、有効に活用していきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

ユネスコスクール活動を通して、官公庁や振興局とのつながりを強めることができた。また、教育コーディネーターの活用を積極的に行うようになり、学校だけでなく、地域で生徒を育てる足掛かりとなった。生徒も、社会人や島外から訪れた大学生など、外部の方々とかかわる機会を得て、自分の将来のイメージを形成することができている。

また、活動を行うにあたり、学校全体での取り組みの必要性を教員が意識するようになった。分掌・学年の連携を密にして、よりよいカリキュラムを作るよう努めた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度は、前年度に行った「ESD対馬学」の取り組みを引き継ぎ、持続可能な地域づくりをテーマに、生徒が自ら課題を設定して解決策を探るための活動を展開する。

前年度は、地域の高齢者にインタビューを行い、そこで学んだ内容を新聞記事にまとめる形をとった。今年度は前年度に引き続き、対馬市の「市民協働・島おこし推進部」や「島おこし協働隊」の教育コーディネーターと連携していくほか、新たに対馬振興局や対馬の企業の方々に講義をお願いしたり、インタビューを行ったりすることで、「産業」をテーマに生徒の地域理解を促していきたい。

また、部活動として「ユネスコスクール部」を立ち上げ、他のユネスコスクールとの交流を模索するとともに、「日韓合同ビーチクリーンアップ」に今年度以上に積極的に取り組むなど、課外活動においてもユネスコスクール活動を推進していきたい。